

展示室1 イギリスの風景画

郡山市立美術館では、イギリスの近代美術をコレクションの大きな柱のひとつにしています。今回は、イギリス美術を語るうえで欠かすことのできない風景画の世界を特集します。

宗教画や肖像画の背景としての役割を超えて、風景そのものを主体に描く風景画があらわれたのは、絵画の歴史からみればそう古いことではありません。イギリスでは18世紀半ばから19世紀にかけて、画家たちが自国の自然に美を見出し、描くべき対象としてとらえた時、風景画が大きく花開きました。さらに風景画の巨匠と称されるターナーとコンスタブルの出現は、風景画の地位を確固たるものとしします。イギリスの画家たちによる風景画は、フランスのバルビゾン派や印象派の先駆けとして大きな影響力をもちました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
トマス・ゲインズボロ	牧夫と牛のいる森の風景	1758頃	鉛筆・紙	
ポール・サンドビー	ウォリック城シーザー塔	1778～82	水彩、インク・紙	
ジョン・ヴァーレー	ポントシスリット・アクアダクト	1826	水彩・紙	
ジョン・セル・コットマン	フェカンのロマネスク遺跡		鉛筆・紙	
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815頃	油彩・キャンバス	
ジョン・ロバート・カズンス	サヴォワ地方、サランシュ附近のアルプス渓谷		水彩・紙	
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	コニストンの荒地	1797頃	水彩、鉛筆・紙	
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス	
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ネッカー川対岸から見たハイデルベルク	1846	エッチング、ライン・イングレイヴィング・紙	ローダーコレクション
ピーター・デ・ウィント	ウィットビー		水彩・紙	
ジョン・コンスタブル	水浴びをする人たち、ハムステッド	1845以前	メゾチント・紙	ローダーコレクション
ジョン・コンスタブル	穀物畑の農家	1844頃	メゾチント・紙	ローダーコレクション
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス	
ジョン・クローム	マウスホールド・ヒース、ノリッジ	1810頃	エッチング	ローダーコレクション
ジョン・クローム	道の風景、トロウズ・ホール（ノリッジ付近）	1813	エッチング	ローダーコレクション
ディヴィッド・コックス	川辺の騎手と人物	1850	水彩、鉛筆、チョーク・紙	
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス	
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス	
サー・エドワード・コラー・パーソンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス	
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス	

展示室2 集え！東西画家合戦

関西と関東、西洋と東洋といった地域の区分、そして浮世絵師や相撲の番付にいたるまで、人はとかく西と東の区別をつけたがるようです。けれども、関西から上京した洋画家が東京で活躍していることも、またその逆もあり、東西の画家について論じることが、東西交流を語ることになるのかもしれませんが。ここでは、「東西洋画壇の雄」、「名所東西」、「洋の東西」という3つのテーマにもとづき、明治から昭和の東西の画家による作品を並べました。それにより、西と東の垣根を越えて近代日本美術の様相を描き出します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
小出 樞重	自画像	1918(大正7)	油彩・キャンバス	
岸田 劉生	男之像	1919(大正8)	水彩・紙	
岸田 劉生	丹絵ごのみ・麗子		木版・紙	(株)寿ビル寄贈
浅井 忠	収穫	1893(明治26)	油彩・紙、板	
伊藤 快彦	夏の静物		油彩・板	
梅原 龍三郎	静物		油彩・キャンバス	
安井 曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス	
安井 曾太郎	早春		水彩・紙	
黒田 清輝	東久世伯肖像エスキース	1894(明治27)	油彩・キャンバス	
和田 英作	上総風景	1897(明治30)	油彩・キャンバス	
白瀧 幾之助	編物をする少女	1895(明治28)	油彩・キャンバス	

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
南 薫造	浪		油彩・キャンバス	南建氏寄贈
南 薫造	瀬戸内海風景	1948(昭和23)頃	油彩・キャンバス	
大下 藤次郎	『瀬戸内写生旅行』より 松のある海辺	1911(明治44)頃	鉛筆、水彩・紙/画帖	
石田 有年	『京都名所五十景』より 洛西嵐山景	1890(明治23)	銅版・紙	明治版画コレクション
岡田 春燈斎	六月七日 祇園會山鉾之図		銅版・紙	明治版画コレクション
若林 春水	浪花三勝景		銅版・紙	明治版画コレクション
岡田 春燈斎	江戸新吉原仲之町		銅版・紙	明治版画コレクション
岡田 春燈斎	江戸八勝景		銅版・紙	明治版画コレクション
松田 龍山	日本三景其一奥州松島風景	1863(文久3)	銅版・紙	明治版画コレクシヨ
平福 百穂	『日本風景版画 第三集 東北之部』 (日本風景版画会)より 松島	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ	
小杉 未醒	日光東照宮図		水彩・紙	
ウィルヘルム・ハイネ	『ペルリ日本遠征記』挿絵 下田浴場図	1856(安政3)	石版・紙	明治版画コレクション
チャールズ・ワーグマン	北京風景	1860	水彩・紙	
チャールズ・ワーグマン	水汲み		水彩・紙	
パーナード・リーチ	北京の前門	1918	ソフトグラウンドエッチング・紙	
パーナード・リーチ	山水	1968	墨・紙	
石井 柏亭	ピサ	1911(明治44)	水彩・紙	
栗原 忠二	遠くに橋の見える風景、ストランド=オン=グリーン		油彩・ボード	
栗原 忠二	オックスフォード		グワッシュ・紙	
石川 欽一郎	サウス・ケンジントン		水彩・紙	
吉田 ふじを	レニヤ山		水彩・紙	(有)ヒノギャラリー寄贈
武内 鶴之助	虹(英国牧場風景)		油彩・キャンバスボード	

### 展示室3 シュルレアリスムの世界

1924年にフランスの詩人アンドレ・ブルトンが『シュルレアリスム宣言』を発表してから100年が経ちます。人間が支配できない夢や無意識の世界を表現するシュルレアリスムの運動は、文学からはじまり、詩や絵画、映画などの分野にも広がり、フランスのみならずヨーロッパを席卷しました。オートマティスムをはじめ、コラージュやフロッタージュ、デカルコマニーといった多様な技法が生み出されたことも特徴です。

日本では、1920-30年代に詩人の瀧口修造や画家の福沢一郎らによってシュルレアリスムが紹介され、同時代の芸術家たちに大きな影響を与えました。第二次大戦が終わると、画家たちはシュルレアリスムの表現を用いて、歪んだ社会への不安や批判を画面に託しました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
鎌田正蔵	白日夢	1938(昭和13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	魔の山	1938(昭和13)頃	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	無題	1949(昭和24)	鉛筆、フロッタージュ、スクラッチング・印画紙	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	無題	1949(昭和24)頃	鉛筆、フロッタージュ・印画紙	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	無題	1949(昭和24)頃	鉛筆、フロッタージュ・紙	鎌田正蔵氏寄贈
杉全直	ふたりの肖像	1949(昭和24)	油彩・キャンバス	
白木正一	予感	1955(昭和30)	油彩・キャンバス	
白木正一	虫囊	1948(昭和23)	油彩・キャンバス	
早瀬龍江	營	1940(昭和15)	油彩・キャンバス	
早瀬龍江	似而非宗教	1953(昭和28)	油彩・キャンバス	白木正一氏寄贈
早瀬龍江	絶望の人間	1958(昭和33)	油彩・キャンバス	白木正一氏寄贈
高山良策	血化洞尻酢池場留	1975(昭和50)	油彩・キャンバス	柳沼文子氏寄贈
高山良策	無題1	1962(昭和37)	鉛筆・紙	
高山良策	無題2	1962(昭和37)	鉛筆、クレヨン・紙	
高山良策	無題3	1962(昭和37)	鉛筆、クレヨン・紙	
池田龍雄	化物の系譜シリーズ『像』	1956(昭和31)	インク、コンテ・紙	
山下菊二	顔の中の顔	1963(昭和38)	油彩、コラージュ・キャンバス	
今西中通	抽象	1936~38(昭和11~13)頃	水彩・紙	
泉茂	カメラ		リトグラフ・紙	
泉茂	ほらふき	1958(昭和33)	リトグラフ・紙	
高間惣七	静物	1937(昭和12)	油彩・キャンバス	
吉井忠	私は輝く水平線を見る	1938(昭和13)	インク、水彩、コラージュ・紙	吉井忠氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
吉井忠	滝口氏による灯	1938 (昭和 13)	インク・紙	吉井忠氏寄贈
吉井忠	落日	1938 (昭和 13)	インク・紙	吉井忠氏寄贈
吉井忠	はさみと月	1938 (昭和 13)	インク・紙	吉井忠氏寄贈
田口安男	缺・ひも・手	1956 (昭和 31)	油彩・キャンバス	田口安男氏寄贈
瑛九	作品 16	1954 (昭和 29)	木炭・紙	
瑛九	作品 3「方向」	1936 (昭和 11)	デカルコマニー・紙	
瑛九	作品 26「フォトデッサン」(“Profile-2”)		印画紙	
加藤太郎	『JEU D'OBJET 1』	1945 (昭和 20)	木版・紙/本	日向綾氏寄贈
加藤太郎	『JEU D'OBJET 2』	1945 (昭和 20)	木版・紙/本	日向綾氏寄贈
合田佐和子	蝶々のブラインド・デッサン	2013 (平成 25)	シルクスクリーン・紙	個人蔵

## 展示室 4-① 明治の東京、江戸の風情

江戸から東京と名称が変わり、日本が近代国家へと歩みを始めた明治時代、西洋の文化が押し寄せ、鉄や石を使った建物、ガス灯などによる新しい町並みや洋装などの風俗があらわれました。江戸時代の錦絵、いわゆる浮世絵版画にみられるように木版画中心だった印刷技術にも、幕末から明治にかけて伝来した銅版画、明治初期に一世を風靡した石版画といった、西洋の技術がもたらされました。

今回は、こうして版種が異なっても、名所や人々の暮らしが生き生きと描かれた作品をご紹介します。新しい風物や風俗にも、色濃く感じられる江戸の風情をお楽しみいただけることでしょう。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
松田 緑山	東京佃嶋遠望商船入津川蒸気出帆之圖		銅版・紙
岡田 春燈斎	江戸上野東叡山花盛		銅版・紙
岡田 春燈斎	江戸両国橋大納涼		銅版・紙
橋本 澄月	江戸神田明神社内風景		銅版・紙
橋本 澄月	江戸上野東叡山花見之景		銅版・紙
尾関 トヨ	東京名勝圖會	1889(明治 22)	銅版・紙
『西洋画譜』(第一秩) 東京真景 (第一) (東京日本堂発行) より			
二神 純孝	ニコライ堂	1890(明治 23)	石版・紙
『西洋画譜』(第四秩) 東京真景 (第三) (東京日本堂発行) より			
二神 純孝	「佃島漁火」	1890(明治 23)	石版・紙
小山 正太郎	「愛宕山晚眺」	1890(明治 23)	石版・紙
小山 正太郎	「亀井戸梅林」	1890(明治 23)	石版・紙
二神 純孝	「東台早桜」	1890(明治 23)	石版・紙
『東京名所』(渡辺忠久版) より			
制作者不詳	「赤坂御所」	1890(明治 23)	石版・紙
『西洋画譜』(第二秩) より	「靖国神社」「神田明神」「日枝神社」「不忍池弁才天」 「根津神社」「深川八幡」「上野東照宮」「亀戸天満宮」 「浅草寺」「増上寺」「東本願寺」	1890(明治 23)	石版・紙
亀井 竹二郎	『懐古東海道五十三驛真景』(徳永柳舟・町田信次郎作画、大山印刷所発行) より 「川崎驛 六合川眺望」「島田驛」 「吉原驛 曉霧望富士山」「赤坂驛」	1891~92(明治 24~25)	石版・紙/ポर्टフォリオ
亀井 至一	東京隅田堤之景	1882(明治 15)	石版・紙
『日光名所』(松木平吉版) より			
亀井 至一	「裏見ヶ瀧ノ景」「瀧ノ尾社景」「山菅之橋景」	1881(明治 14)	木版色刷・紙
村井 巖之助	『日光名所』(有山定次郎版) より「東照宮手水屋」	1896(明治 29)	石版・紙
作者不詳	『日光名所』(渡辺忠久版) より「日光神橋」	1891(明治 24)	石版・紙
亀井 至一	東京下谷芸妓小幾	1883(明治 16)	石版・手彩色・紙
信陽堂	桜狩(『東洋新報』明治 24年 4月 9日第 100号付録)	1891(明治 24)	石版・紙
浅間 利恵子	新吉原名妓喜代	1882(明治 15)	石版・紙 香山秀吉(印刷) 至誠堂(製造) 亀井至一(出版人)
藪崎 芳次郎	東美人	1889(明治 22)	石版・手彩色・紙
波々伯部 繁	芸妓競(『改新新聞』明治 26年 8月 1日第 3148号付録)	1893(明治 26)	石版・紙 三益社(発行) 生慶堂(石印)
宮川 春汀	『美人十二ヶ月』より 「其四 牡丹」「其五 藤見」	1898(明治 31)	木版・紙
平澤 源八	貴顯之令嬢	1889(明治 22)	石版・手彩色・紙
矢島 智三郎 (発行)	貴顯令嬢	1888(明治 21)	石版・手彩色・紙
勝山 繁太郎 矢島智三郎	都之花	1889(明治 22)	石版・手彩色・紙
渡辺 忠久	美人花見之図	1888(明治 21)	石版・手彩色・紙
山本 昇雲	『いますぐた』より 「おすゞみ」「おこしかけ」「ゆり園」 「すずしの顔」「おどろき」	1906(明治 39)	木版・紙
岡田 三郎助	ゆびわ(東洋印刷(石印)『大阪時事新報』明治 41年 1月 1日第 1023号付録)	1908(明治 41)	石版・紙
和田 英作	昭憲皇太后像(改新堂(印刷)『大阪朝日新聞』明治 44年 5月 28日第 10510号付録)	1911(明治 44)	石版・紙
エドアルド・キヨソネ	岩倉具視公肖像	1889(明治 22)	銅版・紙

## 展示室4-② 暮らしに光る工芸

“工芸”とは、日常生活で用いられることを前提とした、美的効果を備える造形芸術です。陶磁器、ガラス、金属、木材など、そのものの用途に合わせて、また作家独自の芸術性の表出として、様々な材質で形作られます。ここでは、日本とイギリスで制作された、食器や調度品、室内装飾をご紹介します。

美術館に収められた工芸品は、本来の役割で使用されることはありませんが、展示室で多くの人の目に留まり、こんな作品が暮らしの中にあれば…と想像の中で活かされることによって、その魅力を一層輝かせるのではないのでしょうか。作品の背景にあるストーリーを自由にイメージして、鑑賞を楽しんでいただけたら幸いです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
各務 鑛三	クリスタル花瓶《鱗影》	昭和 45 頃	ガラス/宙吹・気泡封入、グラヴェール
田淵十一氏寄贈			
吉田 丈夫	クリスタル瓶《瓢》		ガラス/宙吹
佐藤 潤四郎	植物文瓶		ガラス/宙吹・グラヴェール
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・なみなみのワインを		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ
佐藤 潤四郎	ルーマー杯・大好きな形		ガラス/宙吹・プランツ
佐藤 潤四郎 (型制作)	複製「硯屏・ガラスの神様」		サンドキャスト
佐藤 潤四郎	ペーパーウエイト・ペガサス		ガラス/サンドキャスト
佐藤 潤四郎	硯屏・いのしし	昭和 41 頃	ガラス/サンドキャスト
佐藤 潤四郎	灰皿		ガラス/型押し
佐藤 潤四郎	水指(魚)	昭和 61	ガラス/型吹
佐藤 潤四郎	吊り花器		ガラス/宙吹・プランツ、グラヴェール
佐藤 潤四郎	タンブラー(6点)	1980年代	ガラス/宙吹、プランツ
佐藤 潤四郎	花器	1986年頃	ガラス/宙吹
佐藤 潤四郎	玻璃花器	1980年代	ガラス/宙吹
佐藤 潤四郎	雲母入り花器		ガラス/宙吹・雲母封入
佐藤 潤四郎	花器(雲母入り)		ガラス/宙吹・雲母封入
クリストファー・ドレッサー	プロペラ瓶(緑色クルーザ・グラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	花瓶(赤色クルーザ・グラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	スプーン・ウォーマー		金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	ミルク入れ		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	シュガー・バスケット(穴あきふるい付き)		金属、銀メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	レター・ラック&ブックエンド		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	把手付き燭台		真鍮、木製把手
クリストファー・ドレッサー	ファイヤードッグ(暖炉の薪台)		真鍮
クリストファー・ドレッサー	金銀彩植物模様タイル		磁器
クリストファー・ドレッサー	ゴシック模様タイル(10枚)		磁器
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿		磁器
浜田 庄司	鉛釉花打茶碗		陶器
浜田 庄司	白釉鉄絵茶碗		ストーンウェア
クリストファー・ドレッサー	ケトルとケトルスタンド		真鍮、銅

## ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
笠置 季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
●2階展示ロビー			
北村 四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石
細川 宗英	道元	1988(昭和63)	ブロンズ
柳原 義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ
堀内 正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
三坂 耿一郎	女童(めわらべ)	1974(昭和49)	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ